**第４学年　外国語活動学習指導案**

日時　　平成２９年１０月２４日（水）第５校時

対象　　第４学年２組　名

指導者

**１　単元名**　　「食文化を通して、身近なよいところを発見しよう！」

**教材**　　　　WELCOME TO TOKYO Elementary ④

**２　単元の目標**

・担任やNTの指示をよく聞き、活動している。

・活動を通して、友達とコミュニケーションを図っている。

・食事に関するメニューや使う物、味を表す表現に慣れ親しむ。

・英語を通して日本以外の食文化のよいところを知ると共に、自国の食文化のよいところに気付く。

**３　単元の評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ア　コミュニケーション　への関心・意欲・態度 | イ　外国語への慣れ親しみ | ウ　言語や文化に関する気付き |
| 単元の評価規準 | ・担任やNTの指示をよく聞き、活動しようとしている。・活動を通して、友達とコミュニケーションを図ろうとしている。 | ・食事に関するメニューや使う物、味を表す表現に慣れ親しんでいる。 | ・英語を通して日本以外の食文化のよいところを知ると共に、自国の食文化のよいところに気付いている。 |
| 学習活動に即した具体的な評価規準 | 1. 担任やNTの話を聞いて、どんな食事や味なのかを想像しようとしている。
2. 自分たちが何気なく使っている物のよさを伝えようとしている。
 | 1. 様々な食事を表す表現に慣れ親しんでいる。
2. 味を表す表現に慣れ親しんでいる。
3. 食事をする道具を表す表現に慣れ親しんでいる。
 | 1. 文化の違いに興味をもち、自分なりの答えを出そうとしている。
2. 自分たちが何気なく使っている物のよさについて考えようとしている。
3. 自国の文化に気付くと共に、他国の文化のよさも認めようとしている。
 |

**４　単元について**

 　外国語活動の目的は、「外国語活動を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことである。（小学校学習指導要領　第４章　外国語活動

　　第１　目標）

　　　本単元では粟野移動教室で行った竹箸作りを生かし、まずは自国の文化に気付かせる。そこから、WELCOME TO TOKYO Elementary　の自国の文化を紹介する場面とつなげ、外国の文化の気付きへと発展させたい。そして、違いを知ることにより、自国文化の良さを改めて知ると共に、他国のよさも認められるようにしたい。

　　　また、道徳の中で道具の良さを考えさせたり、総合的な学習の時間で自国の文化のルール等を確認したりすることにより、教科を横断的に取り入れ、主体的・対話的な学びへと広がりがもてるであろうと予想し、食文化を取り入れた活動を設定した。

**５　児童の実態**

実態調査結果から（平成２９年６月　実態調査８８名実施）

　英語活動の学習については95％以上の児童が「とてもすき」「すき」と回答しており、英語活動を楽しみにしている児童が多いことがうかがえる。一方で、「進んで活動しているか」や「次に何をするか考えようとしているか」については1割以上の児童が否定的な回答をしており、前向きに学習に取り組むことに抵抗感を感じている児童が少なからずいることがわかった。また、「外国に興味がありますか」という質問に対しては、2割程度の児童が「興味がない」「あまり興味がない」と回答していたことから、海外への関心が高くない児童が一定数いることがわかった。

　以上の実態を踏まえて、5学年では、自分たちにとってなじみ深い食文化を扱うことを通して、進んで活動することができれば、めざす児童像にせまることが出来ると考える。

**６　研究主題との関連**

研究主題

外国語活動におけるコミュニケーション能力の育成

～他教科との関連を図りながら～

めざす児童像

いろいろな人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする子

簡単な英語をツールとして、主体的に考えようとする子

（１）活動の工夫

　　　積極的にコミュニケーションを図るために児童が英語に親しみを感じ、楽しいと思える活動を設定する。

　（２）教具の工夫

　　　　ICTを活用し、見て感じたことをすぐに示せる工夫をする。また、食事の絵カードやを活用することで、イメージと音声の両面から理解につなげられるようにする。

　（３）自信をもてるための工夫

　　　　事前に国語の学習で箸とスプーン、フォーク、ナイフのどちらがよいかというテーマで討論を行うことで、自分なりの意見をもった形で学習に入れるようにする。

**７　単元の指導計画と評価計画（４時間扱い）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ねらい | 学習内容・学習活動 | 学習活動の即した具体的な評価規準（太字が重点をおくところ） |
| 第１時 | ・担任やNTの指示をよく聞き、活動している。・食事に関するメニューや使う物、味を表す表現に慣れ親しむ。 | ・食事カードで英語の表現練習をする。・特にどれが朝食かを考える。・NTの朝食の話を聞く。 | **アー①****イー①**ウー① |
| 第２時 | ・担任やNTの指示をよく聞き、活動している。・食事に関するメニューや使う物、味を表す表現に慣れ親しむ。 | ・様々な国の食事に触れるとともに、味を表す表現練習をする。・禁じ手やマナーについて確認し、NTにもその習慣があるかを確認する。 | アー①**イー②****ウー①** |
| 第３時（本時） | ・担任やNTの指示をよく聞き、活動している。・活動を通して、友達とコミュニケーションを図っている。・英語を通して日本以外の食文化のよいところを知ると共に、自国の食文化のよいところに気付く。 | ・食事カードで英語の表現練習をする。・夕食について考えることから、食事に使う道具の違いに気付く。・グループで箸のよさについて話し合い、道具を選んで競争する。 | **イー③**ウー②**ウー③** |
| 第４時 | ・活動を通して、友達とコミュニケーションを図っている。・英語を通して日本以外の食文化のよいところを知ると共に、自国の食文化のよいところに気付く。 | ・友達と活動するうちに気付いたよさをNTに伝える。・箸の使い方をNTに教える。 | **アー②****ウー②** |

**※これとは別に国語の学習の中で道具についての討論を行う。**

**８　本時（全４時間中の第３時間目）**

（１）本時の目標

　　　○食事や使う道具に関する英語表現に慣れ親しもうとする。

　　　○自国の文化のよさに気付くと共に、他国の文化のよさも認めようとしている。

（２）本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 活動 | HRT | ◎評価　●教材 |
| 挨拶 | ○日直（English leader）が先に挨拶をする。 | ・気分を素直に表す雰囲気作りを大切にする。・児童の反応に対応する。 |  |
| 展開 | ○今まで習った食事の名前や新しいメニューの名前を確認し、練習する。・orange juice/salad/pickle/green tea/nattou/pancake/pizza/miso soup/rice/sushi/hamburger/fried chicken/yoghurt/sawsage/hotdog/cereal/spaghetti/sandwich/○ある日のNTとHRTの食事を見比べて、違いを考える。・steak/chopsticks○ナイフ、フォーク、スプーンに比べて箸の必要性を考え、比較できる活動を行う。・箸やスプーンを使って、豆やビー玉を平皿や深皿、ティッシュの上から移し替える。○実際に行った活動をもとに箸やスプーンのよさについて話合う。 | ・今まで習った言い方を覚えているか、確認する。・単調にならないよう、テンポよく進める。・習熟を図るためのアクティビティ（キーワードゲーム）を行う。・絵をよく見るように促す。・あわの移動教室で箸作りを行ったことを想起させる。・箸とフォーク、スプーンのそれぞれのよさを意識させるような声かけを行う。 | ●食事カード●食事の献立の絵◎食事や使う道具に関する英語表現に慣れ親しもうとする。●スプーン・箸丸いもの（豆・ビー玉など）平らな皿・深い皿◎自分たちが何気なくつかっているもののよさを一生懸命伝えようとする。 |
| 振り返り | ○今日の活動について振り返りカードに記入し、日本や他の国の道具のよさについて考える。 | ・児童が感じたことを引き出せるような声かけを行う。・本時の頑張りを褒める。 |  |

＜授業観察の視点＞

・今回の学習活動が、英語を通して日本以外の食文化のよいところを知ると共に、自国の食文化のよいところに気付くことにつながっていたか。

・教具の工夫を行ったことが、児童にとって英語の表現に慣れ親しむことにつながっていたか。